

## 徳島県と徳島大学の合同進学セミナーの実施と今後の展開

上岡 麻衣子、植野 美彦、関 陽介

徳島大学高等教育研究センターアドミッション部門

### 1. はじめに

近年、徳島県内の18歳人口減少や関西、首都圏への若年層人口の流出などが地元産業の後継者不足や衰退につながると危惧されている。

そのような中で徳島大学は、2015年度に採択された地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COCプラス）「とくしま元気印イノベーション人材育成プログラム」で、県内の高等教育機関における県内就職率を5年間で10%の増加を図ることを目指している<sup>1)</sup>。

徳島大学では、2018年度卒業生で就職した者の内、県内に就職した者は、約2.5割となっている。徳島大学の学生は約7割が県外出身者であることから、安定した県内就職率を継続させるには、徳島県内生への依存だけでは厳しくなることは明らかであり、今後は徳島県に定住しうる県外生の確保が重要になってくる。そこで、県外出身者の内、約半数を兵庫や大阪など関西圏が占めていることから、大阪にある徳島県関西本部で徳島県と徳島大学の合同進学セミナーを月一回定期的に開催することとなった。

目的は以下の3つである。

- (1) 関西地区の受験生や保護者等に対し、「徳島」と「徳島大学」の魅力を伝える。
- (2) 徳島県関西本部への来場を通じて、徳島をより身近なものに感じていただく。
- (3) 大学（大学院）卒業後、引続き徳島への定着を入学前から意識してもらうことに繋げていく。

本研究では、合同進学セミナーのプログラム設計、実施状況や参加者に行ったアンケート結果を基に、その成果および課題、今後の展開について考察していく。

### 2. 対象者と開催日時、参加者数等

対象者は、高校生、既卒者、保護者、高校教員等で、参加はwebで事前申込制とした。申込の際に、氏名、高等学校等名、志望学部・学科（専攻）、同伴者の有無、個別相談の希望などを入力することになっている。

今年度の開催日時は、2019年9月27日（金）、10月25日（金）、11月29日（金）、12月26日（木）、2020年1月23日（木）の計5回で、高校生が参加しやすい16時30分から開始とし、19時終了とした。

関西本部は、1階がアンテナショップになっており、徳島県の特産品などの販売店、4階、6階に観光・物産案内窓口や会議室等がある。事務所玄関前には、阿波踊り人形が飾られ、展示ブース（徳島に関する様々な情報を提供）、観光等のパンフレットを各種取り揃えている（2019.9.27現在）。

まずは、徳島県の暮らしやすさ等をアピールするために徳島県職員による説明（図1）、次に、アドミッション部門教員による大学概要説明を実施した。その後、事前質問の回答と希望者に個別相談を行った。



図1 徳島県職員による説明

9月、10月の参加者の属性を表1に、住居を図2に表している。表1から参加者は、高校3年生と保護者が大半を占めていること、図2から、兵庫、京都、和歌山など大阪以外からの参加も多いことがわかる。

表1 参加者の属性

開催日	高1年	高2年	高3年	既卒生	保護者	その他	合計
9月27日(金)	0	1	6	0	4	1	12
10月25日(金)	0	1	4	0	11	0	16

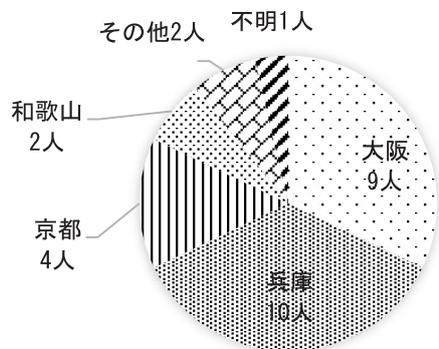


図2 参加者の住居

### 3. アンケート結果

参加者にアンケートの協力を依頼した。9月、10月のアンケート回収率は82%で、本セミナーへ参加しようと思った理由を複数回答で聞いたところ、「徳島大学に関心があるから」が全体の4割で1番多く、次に、「オープンキャンパスに参加できなかったから」が約3割となった(図3)。

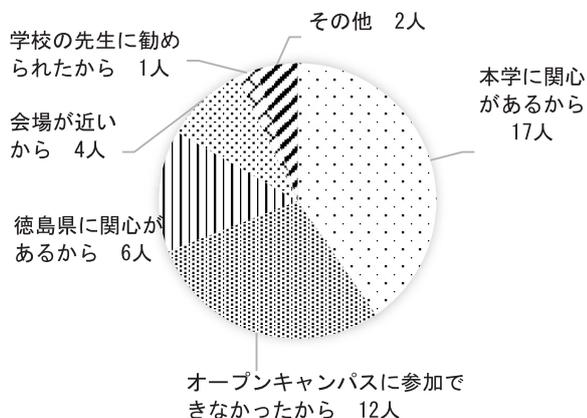


図3 参加の動機

セミナーに参加した結果、徳島県や本学に対するイメージがどのように変化したか聞いたところ、参加者の78%が「良くなった」、22%が「やや良くなった」と回答した。さらに、徳島県と本学の両方の説明を聞くことで、より本学へ進学したいと思ったかを聞いたところ、参加者の70%が「思った」、22%が「やや思った」と回答した。そう思った理由についての自由記述では、「今まで知れなかった大学や徳島県の魅力を知り、入試へのモチベーションの向上につながりました。そしてより入学したいという意志が強くなりました」、「生活面、大学について両方を聞き、自分と合っている環境だと思ったから」、「環境等伝わり不安が減った」等であった。

### 4. 成果と課題、今後の展開

成果として、徳島県と合同で説明を行うことで暮らしやすさなど徳島県の魅力も伝わり、より徳島大学への進学を強く意識させることに繋がったと言える。また、受験を間近に控えた高校3年生の参加が多かったことから、志願者に結びつく可能性が高い。運営交付金が年々減額され、入試広報活動の予算も減額せざるをえない現状において、徳島県の施設を利用し、アクセスの良い大阪で開催できることは、志願者を確保する上でも大変有益であると考えられる。

課題として、目的(3)の大学(大学院)卒業後、引き続き徳島への定着を入学前から意識してもらうことに繋がったかどうかについて検証できていない。今後、COCプラスやキャリア支援室との連携も含め、継続的に検証していきたい。

### 参考文献

- とくしま元気印イノベーション人材育成プログラムホームページ  
<https://www.tokushima-u.ac.jp/coc-plus/news/> (2019.8.2閲覧)